

両生類の産卵期



あきる野市では、1月下旬からアカガエル、モリアオガエルの仲間やアズマヒキガエルが産卵を始めます。カエルの産卵は、

梅の開花とともに、「春がやってきた」と言う季節を感じさせてくれます。

現在、市内には日本在来の両生類が14種類生息しています。種類ごとの産卵期に合わせ、7月までには全ての両生類の産卵が行われます。1月から3月までにはアズマヒキガエル、ニホンアカガエル、タゴガエル、ナガレタゴガエル、ヤマアカガエル、そしてトウキョウサンショウウオの産卵が行われます。4月から7月は、アマガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル、アカハライモリやヒダサンショウウオの産卵が行われます。種類によって産卵の方法はさま



ざまですが、特に、シュレーゲルアオガエルやモリアオガエルの泡巣あわす、サンショウウオの仲間のバナナ状の卵のう、アズマヒキガエルの長いひも状の卵のうが特徴的です。
ふ化した幼生は、夏の終わりまで水中で見ることができですが、ヒダサンショウウオの幼生など、種類によっては水中で越冬するもの

もいます。また、成体は、秋になっても森の中で活動している様子を見ることができません。このように、両生類はほぼ年間を通じて観察する事ができますが、私が、両生類の活動の中で毎年一番楽しみにしていることは、生命の誕生である産卵期が始まることです。両生類はそれぞれの環境により生息する種類が異なりますので、皆さんもあきる野の自然とふれあいながら両生類の産卵を観察してみませんか。

現在、市では自然環境調査部会で市内の動植物や地質の環境調査を行っています。両生類、爬虫類、野生動物などを見かけたら環境課に連絡してください。

パプロ アパリシオ